

令和5年度第2回岐阜県総合教育会議 議事録

1 開催日時及び場所

令和5年9月12日(火) 10時30分 ~ 11時30分

岐阜県庁舎 20階 会議室2004

2 出席者

知事 古田 肇

教育長 堀 貴雄

委員 竹中 裕紀

委員 野原 正美

委員 村上 啓雄

委員 市川 祥子(オンライン出席)

委員 打江 記代

3 オブザーバー

副知事 河合 孝憲

清流の国推進部長 長尾 安博

副教育長 富田 剛

4 陪席

参与兼義務教育総括監 香田 静夫

教育次長 中川 敬三

清流の国づくり政策課長 西 千代美

教育総務課長 関谷 英治

5 議事録

別紙のとおり

## 議 事 録

発 言 者	発 言 内 容
清流の国 推進部長	<p>これより岐阜県総合教育会議を開催する。</p> <p>本日は、市川委員はオンラインでの参加となる。「岐阜県の教育、学術、文化及びスポーツの振興に関する大綱」、いわゆる岐阜県教育大綱及び、教育大綱のアクションプランの一つと位置づけられている「岐阜県教育振興基本計画」、いわゆる岐阜県教育ビジョンについて、今年度末に終期を迎えるため、今年度は総合教育会議において皆様のご意見を頂戴しながら1年をかけて策定作業を進めているところである。</p> <p>今回の会議では、6月に開催した第1回総合教育会議でのご意見も踏まえて準備させていただいた教育大綱の骨子及び素案と、教育ビジョンの骨子について、ご意見を頂戴したい。</p> <p>それでは、時間も限られているため、次第に沿って進めさせていただく。</p>
<b>岐阜県の教育、学術、文化及びスポーツの振興に関する大綱（第3次岐阜県教育大綱）の策定について</b>	
清流の国 推進部長	資料1-1～1-4により説明
<b>岐阜県教育振興基本計画（第4次岐阜県教育ビジョン）の策定について</b>	
副教育長	資料2-1～2-3により説明
清流の国 推進部長	それでは、意見交換に入らせていただく。今のそれぞれの説明を参考にさせていただきながら、大綱とビジョンの策定に向けて盛り込むべき内容について、幅広く忌憚のないご意見をいただきたい。

## 意見交換

村上委員

非常に幅広く網羅されており、文言も綺麗になっているので大きな点では意見はない。デジタル技術に関しては「有効活用する」といった文言を入れていただくと良いのではないかと。AI等の進歩において、誤った情報に基づいた偏見・差別や、ネガティブで不適切な情報が晒されるといった懸念がある。もう少し、デジタル技術の危険性、あるいは、使い方をきちんと知る、という点を盛り込むべき。言葉にすると「デジタル技術の適切かつ有効活用」といったところになるのでは。そういった点は結果的には適切なコミュニケーション能力の醸成にもつながるし、他人への敬意や思いやりにもつながる。敬意を払える人材を育てる、という点も入れると良い。

2つ目は、今は必ずしも学校に行かねばならないという流れも無くなった。不登校者については今も増加しているが、今後も相当に増加するという懸念がある。不登校者をどう支援するか具体的に示せると良い。それらの方々が成人を迎える時、社会的に取り残されないようにするという点を強調できると良いのでは。

中高一貫について。異なる群の生徒が入学する際や途中から入る仕組みの場合など、生徒間の差別や偏見が生じる可能性がある。入学してから差別や溝ができないようにするためにはどうしたらいいか考えていかなければならない。

竹中委員

非常に練られているし、皆さんの意見もよく入っている。教育大綱はほとんど骨格が一緒で、中身を上手く現実に合わせることが重要。狙っている方向性も上手く示されている。教育大綱からビジョンに移る時に、5つの基本方針が4つに減ったということで、子どもたちのためのビジョンというところに集中する、ということであると思う。先生の働き方改革に関しては、ビジョン骨子案では表現が少し変わったが、今は生徒が自分で考える教育に変わってきており、先生も「教える」から「助ける・アシストする」という役割に変わってきている。また、巡り合う先生によって人生が変わってしまうくらい、人生の方向性や進学などを助言してもらえると大分違って来る。カウンセラー的な役割も必要となり、先生の質の向上を図っていく必要がある。先生の働く環境の整備もかなり取り組んでいただいていると思うが、まだ「魅力ある」というところまでは到達していない。先生方が本当に自分達の情熱をもっと燃やせるような環境となるよう徹底的に変

	<p>えていかなければならない。そういったことが教育大綱のほうにもつながってくるだろうと思う。</p> <p>中高一貫校については、前々から、中学と高校の役割が重なっているところはあると感じている。中高一貫だと、長く目標を定めた取組みが可能となるのでは。スペシャリストはもちろんその方が育つと思うし、そうでなくても、もう少し中身の濃い勉強ができるのではないかと思う。進めたら良いと考えるが、どう進めるかが難しい。</p>
野原委員	<p>ビジョンの第3次と第4次では中身がかなりスリム化されて、とても分かりやすい目標になっていると思う。この中に、児童生徒に身に付けて欲しい力が沢山書いてあるが、今は探求的な学びの時間というものを大切にされていて、そのために自分の言葉で色々なことを考え課題を解決する、ということが重要とされているが、これは本当に大切なことであると思う。一つの例だが、留学生として海外に行かれた生徒さん達の発表会を聞かせていただく機会があり、その時に生徒さん達が仰っていたことは、『自分が何者か』ということが、海外の子どもたちははっきり言うことができるが、自分達が自己紹介で『自分が何者か』を話す時、すごく考えて言わなくてははいけなかった。なかなか上手くできなかった。」ということ。ビジョンで目標を持って目指す人間像を示す中で、子ども達が自分の言葉で自分をアピールする手段として何かを持てるようになって欲しいと思う。何でもいいので好きなもの、自信を持って言うことができる事柄を持つ、ということを育めるような項目をビジョンや大綱の中に入れることができると良い。これまでいくつかのビジョンに携わらせてもらったが、とてもスリム化され分かりやすく良くまとまっていると思う。</p>
打江委員	<p>第4次ビジョンは基本方針が4つとなり分かりやすいと思った。一週間前に朝通勤する際に、先生が、遅れて登校する小学生の子と手をつないで歩く姿を見た。本当にこみ上げてくるものがあった。こういう姿こそ本当の教育の姿だと思った。一日一日を積み重ねて大切に教育するということを見せていただいた。地道な活動をしていただいている先生方には本当に頭が下がる思いだ。色々な難しい課題はあるが、先生が子どもと向き合う時間、向き合う姿こそ教育のあり方だと思う。</p> <p>また、8月にある高校生に会った。地域の高校生を対象とした鑑賞会でジャズを</p>

	<p>聴く機会があり、非常に感動したとのことだった。ふるさと岐阜で心を動かすこと、感動する活動や経験をするということも、きっと生徒達にとっては心に残るふるさと教育となるのでは。</p> <p>高校生と話す機会があり、地域の良い点について尋ねると、「地域の人が挨拶してくれる、声を掛けてくれる」といった本当に些細なことが返ってくることもある。些細だけれども、その子にとっては心に残る出来事。大きなことではなくても小さな地域の活動や地域力が大切だと思う。そういったことがあれば、地域に希望が持てるし、地域のことを想うことができるようになっていくのではと思う。</p> <p>ビジョンの骨子案の基本方針4にある「優れた教職員」は、何をもって優れているのか、どういうことが優れているということなのか、意味が狭まってしまわないか。また、今は高校も色々な選択肢があり、通信制に通う子も増えていると聞くと、どんな進学をしても、自立に向けてどう促していくかということが非常に大事。自立を促していける社会であって欲しいし、自分の課題を解決していける人を育成する岐阜県であって欲しい。</p> <p>中高一貫だと、3年間ではなく6年間の期間で目的を達成するということができる。生徒さんも目的意識を持って入学する子が増えるのでは。</p>
市川委員	<p>(ビジョン骨子案について) より目標に沿って行動するために分かりやすくなっていると感じた。活きた内容として指導する側が使っていけるようなものでないと意味が無い。</p> <p>中高一貫校に関しては県外への流出を食い止める意味もあると思う。子どもの数がそもそも少なくなっている中で、どの高校が良いのか、というのは難しい問題だが、高専のような専門性を持った形で、何に特化した専門性とするのかは難しいが、国内や海外も含めて幅広く情報を得たうえで決めていくのが良いのではないかと。</p>
清流の国推進部長	<p>それでは、一通りご意見をいただいたところだが、他の方のお話もお聞きになったうえで追加意見など、他にも何かご意見があれば。</p>
村上委員	<p>「優れた教職員の確保」についてご意見があったが、教育大綱の素案の基本方針5(3)にある、教職員の「育成強化を図るほか、教職員自らの主体的な学びやスキルアップを支援」する、というのは具体的にはどういうアクションをやるのか。</p>

<p>教育総務課長</p>	<p>教職員も昨今は色々な問題を起こすケースもあるし、また、教育そのものの質の向上にどれだけ注力できるか、つまり、教育の質を高めるための教員の資質の向上が重要である、ということを私どもは考えている。そういった意味で、教員採用試験の倍率も低い中、そもそも教員を確保するための取組みや、確保した中で質を高めていく研修などを首尾一貫してやっていく必要がある。さらに、昨年度は教職員を養成する県内の大学とも連携をして、学生に対し教員になる前から意識を高めていただく取組みを始めたところ。一貫した取組みを進めていきたいと考えている。</p>
<p>村上委員</p>	<p>私も既に研修等で講師を務めさせていただいているのでよく理解をしている。教育委員会全体として教員の資質を上げるための取組みを更に強化するという意味で、大学で言うところのFD（ファカルティ・ディベロップメント）というところの文言が入ったほうが良いのではないかと。</p>
<p>清流の国推進部長</p>	<p>他に何か追加のご意見は。</p>
<p>知事</p>	<p>そもそも論だが、教育大綱と教育ビジョンは紛らわしいところがある。教育大綱は略称であって、本来は「岐阜県の教育、学術、文化及びスポーツの振興に関する大綱」であり、教育ビジョンは、「岐阜県教育振興基本計画」である。教育大綱の中の一部に教育があり、更にそのアクションプランとしての位置づけで教育ビジョンがある。アクションプランであるのにビジョンと呼んでしまっているから、「教育大綱と教育ビジョンはどこが違うの」と、ますます分かりにくくなる。そういったことがベースにある中で、この場は総合教育会議であって、教育大綱を議論する場であるので、もちろん教育を議論するのは当然のことであるが、学術、文化、スポーツの振興も視野に入れた大綱として全体のバランスが取れた内容になっているか、といったことについても皆様から率直なご意見をいただけたらありがたい。</p> <p>私自身、教育大綱という略称を変えたほうが良いんじゃないかという気がしている。同じタイミングで策定する教育大綱と教育ビジョンの混同、同じことをやっているように見えるという紛らわしさがある。</p> <p>先程、海外の方が自身をアピールすることについてのお話があったけれども、今</p>

	<p>は国際的にも日本の存在感がどんどん下がってきていることを色々な場面で痛感している。そういう点からも発信力や自己表現力、あるいはイノベーションへの取り組みが大切である。日本全体の存在感の低下の中で、教育の役割をどう考えるか。文化や学術というものの位置づけをどう考えるか。そういうコンテキストも、この時代の変化の中では大事だと感じている。</p> <p>それから、中高一貫の議論について。愛知県が近く公立の普通校を中高一貫化するということで、話題になっているのだが、これは色々な角度から議論しなければならない難しい問題だ。義務教育である中学校と、その後の高等学校とを一つにするということ、公立の中学校と公立の高等学校を一つにつなぐということは、小学校6年生の子どもがどこの中学校を選ぶかで高等学校も決まってしまう、ということ。今度は小学校5年生や6年生で受験競争が始まってしまうのではという懸念もあるし、進学する地域を限定する場合には高等学校が地域校という位置づけになるのかという課題もある。また、教員の人事についても、中高一貫校が出来ていく状況での普通校の人事をどうしていくかという非常に難しい問題もある。そのあたりも含めて、早急にスタンスを決めなければならない。皆様からもご意見をどんどんいただければありがたい。</p>
<p>清流の国 推進部長</p>	<p>時間が迫ってきているが、他にご意見のある方は。</p>
<p>村上委員</p>	<p>今、知事が仰ったような観点で述べさせていただくとすると、文化・芸術の分野のところに「岐阜の地域でないと学べない学び」といった内容を入れてはどうか。素案にはリカレント教育やデジタル技術などの総論的な内容が書かれているが、清流などに関連付けた文化・芸術、といった点を盛り込むと良いのでは。</p>
<p>清流の国 推進部長</p>	<p>皆様から多岐にわたってご意見をいただきありがとうございました。知事から、タイトルの分かりにくさに関して話があったが、次回に向けて検討させていただく。</p> <p>それでは、教育長からコメントを。</p>
<p>教育長</p>	<p>現ビジョンを振り返ると、計画期間が始まったのが令和元年度の4月ということで、その前の3月からコロナによる学校の休校が始まった。計画期間のこの5年間はまさにコロナ禍だった。コロナによって、教育の分野、教育大綱全体の分野にお</p>

	<p>いて色々な変化があったし、それにより分かったこともあると思っている。それを現在、皆さんと一緒に検証し、次の教育大綱、教育ビジョンに活かしていくということが必要だ。</p> <p>そうした中で、私の思いは、芸術・文化・スポーツというものは、DXの世界だけでは補いきれなかったものであったということ。もう一つは、よく「文化に親しむ」、「スポーツに親しむ」という言葉があるが、文化に触れて文化活動に加わることや、スポーツをすることで、親しむだけではなく自分の人間形成や社会力の醸成につながっていることは誰しも実感することだと思う。コロナ禍の5年間を経て、次の5年間をどうするかというところで、幸いにも岐阜県においては来年度に国民文化祭と高校総合文化祭がダブルで開催される。本当に良い機会だと思っている。知事も「レガシー」という言葉をいつも仰っているが、まさにそれらのレガシーとしての5年間につながっていけば良いと思う。そういった点も計画に含めていければ。</p> <p>中高一貫校については、愛知県の状況と岐阜県の状況とでは異なる点がある。愛知県では、子どもが入学を目指す有名私立の中高一貫校が圧倒的な進学実績を上げている状況があり、そうした教育環境の中で公立が果たす役割がある。県外流出という課題もあり、そういった点もしっかり検証しながら、中高一貫について幅広く意見を求めているところ。そうして検討しながら今後の方向性を早急に決めていく必要があると考えている。</p>
清流の国 推進部長	最後に知事からコメントを。
知 事	今日は骨子、素案という形で次期大綱の案を出してもらい、それに併せて次期教育ビジョンの骨子案も見ていただいた。貴重なご意見もいただいたところであり、引き続き、各方面にご意見を伺いながら次期大綱案を固めてまいりたい。またその都度皆様にもご相談させていただきたい。よろしく願います。
清流の国 推進部長	<p>それでは以上をもって、岐阜県総合教育会議を終了させていただく。</p> <p>本日は誠にありがとうございました。</p>